

真理と宗教の自由の旗

論争点を調べる 無関心と中立 人々の心を揺り動かす手段

「宗教的危機における無関心と中立は、神から嘆かわしい罪と見なされ、神に対する最も悪い種類の敵意に等しいものである」。(教会へのあかし 3巻 p281 英文)

「神の戒めに対して、あらゆる反対が唱えられる。そしてこれが、その擁護者たちに、人々の前でその価値を示すことができるようにする。反対や迫害ほど、真理のなかにある美しさと力を明白にするものはない」(13MR72)

「試す真理は、たとえそれが侮られても、前面におし出され、それが調べられ、討論の主題になることを神は意図される。人々の心は揺り動かされなければならない。あらゆる闘争、あらゆる叱責、あらゆる中傷は質問を引き起こし、他の方法では眠ってしまう人々の心を目覚めさせる神の手段となるであろう。」(5T453 RH Extra 12-11-1888 p. 4)

「われわれの兄弟方によつて現わされる不和の精神を見ることほど私を驚かせるものはない。われわれがクリスチャンらしく共に会合し、礼儀正しく論争点を調べることができないとき、われわれは危険な立場にある。私は聖書の教えをざつぐばらんに調べることのできない人たちの性格を受けないためその場から逃げたい気がする。彼らの意見と違っている意見の確証を公平に調べることのできない人々は神のためのどの部門においても教える資格はない」。(セレクトッド・メッセージス 1巻 411 英文)

使徒 5:29-42 の靈感の解説 患難上 67-69

「イエスの名をこれ以上語ってはならないという命令に対して、

『神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい』答えて、弟子たちは恐れなくその主義に立った。

これは宗教改革の時代に、福音を信じる者たちが戦い抜いて守ったものと同じである。1529年にドイツの諸侯がシュパイエル会議に召集された時、宗教の自由を抑圧し、それ以後、改革派の教理の宣伝を厳禁する皇帝の勅令が出された。この世界の希望はまさに抹殺されようとしていた。諸侯はその勅令を受け入れるだろうか。福音の光は、今もなお暗黒の中にいる多くの人々から閉ざされてよいだろうか。世界の大問題が危機にひんしていた。そこで改革派の信仰を受け入れていた人々が集まり、「この勅令を拒否しよう。良心の問題について多数決ということは言えないはずだ」と満場一致で可決した (ドービニエー著 ①「宗教改革史」第13巻・5章)。

今日、われわれはこの原則を確固として支持しなければならない。その時以来、幾世紀にわたり、福音教会の創設者や神の証人たちが高くかかげてきた真理と宗教の自由の旗は、この最後の争闘においてわれわれの手にゆだねられている。この大なる賜物の責任は、聖書の知識をさずけられた人々の上にかかっている。われわれは、聖書のことばを最高の権威として受け入れる。われわれは人間の政府を神が定められたものとして認め、合法的な範囲内でそれに従うことを、聖なる義務として教えなければならない。しかし、その要求が神のご要求と矛盾する時は、人間よりむしろ神に従わねばならない。神のみことばをすべての人間の法律にまさるものとして認めねばならない。「教会がこう言う」、あるいは「国がこう言う」ということのために、「主がこう言われる」ということを放棄してはならない。キリストの王冠は、この世の主権者の王冠より高くかかげられねばならない。②

われわれは、権威を無視するようには求められていない。法と秩序に反対する者と思われるようなことをしゃべったとして記録されることがないように、話す言葉でも、書く言葉でも、注意深く気をつけなければならない。われわれの道を不必要に閉ざすようなことを、言ったりしたりしてはならない。われわれはキリストのみ名によって前進し、ゆだねられた真理を擁護しなければならない。③

もしこの働きを人々から禁じられるような場合には、使徒たちと同じように、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」と答えることができる。

① 大争闘上 249、371

2 希望 370 「良心の問題において、人を束縛してはならない。だれも他人の心を支配したり、他人の代りに判断したり、他人の義務を規定したりすべきでない。神は、ひとりびとりに考える自由と、自分自身の確信にう自由をお与えになっている。「わたしたちひとりびとりは、神に対して自分の言いひらきをすべきである」(ローマ一四ノ二)。自分自身の個性を他人の個性の中に没入させる権利はだれにもない。原則にかかわるすべての問題において、「各自はそれぞれ心の中で、確信を持っておるべきである」(ローマ一四ノ五)。キリストの国には、横平な圧制もなければ、強制的なやり方もない。」 ※個性とは、教育6-創造主の能力に近い能力=思考し行動する能力。

患難下 119-120 最も堅固な信頼と最も英雄的な意志がなければならない。

② 教会指針 2005, 10 頁

「従って総会の決定は、それが神の御言葉と個人の良心の自由の権利に明らかに反するものでないならば、例外なくすべての人が従うべきものであることを決議する」

③ 大争闘下 360. 「しかし神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する1つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議(これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびたしい数にのぼって内容も千差万別である)、大衆の声、—これらのうちの1つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、「主はこう言われる」という明日な事実をその裏づけとして要求すべきである」

3 希望 375 「弟子たちにお与えになった任務の中に、キリストは、彼らの働きのあらしを述べられたばかりでなく、彼らのメッセージもお与えになった。「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ」とキリストは言われた(マタイ 28:20)。弟子たちはキリストがお教えになったことを教えるのであった。キリストがご自身の口を通してばかりでなく、旧約のすべての預言者たちと教師たちを通して語られたことがここに含まれている。人間の教えは除外されている。言い伝えや、人間の理論や結論、あるいは教会の律法がはいる余地はない。教会の権威によって定められたおきては、この任務の中に含まれていない。キリストのしもべたちは、そうしたものを教えるのではなかった。キリストご自身のことばと行為についての記録とともに、「律法と預言者」が世に与えるように弟子たちに委託された宝である。キリストのみ名は、彼らの合いことばであり、彼らを世人と区別する記章であり、彼らの一致のきずなであり、彼らの行動の権威であり、彼らの成功のみなもとである。キリストのみ国では、キリストのみ名がきざまれていないものはどんなものでも認められないのである」

1 SM416 「聖書、聖書のみが我々の唯一の信条であり、一致の帯である。この聖なる書に屈服するすべての者は一致するであろう」

1 希望 81-82 イエスと人間の規則

「ユダヤ人の子供は幼い時からラビの要求にとりかこまれていた。生活のこまかい点まで、1つ1つの行為が厳格な規則によって規定されていた。青少年たちは、会堂の教師たちの下で、伝統的なイスラエル人として当然守るものとされている数え切れないほどの規則によって教育を受けた。しかしイエスはそうした事から関係されなかった。イエスは、子供の時からラビの律法にとらわれないで行動された。イエスはいつも旧約聖書を研究され、「主はこう言われる」ということばがいつも彼の口からきかれた。

イスラエルの民の状態がイエスの心にわかり始めると、彼は社会の要求と神のご要求とがたえずぶつかり合っているのをごらんになった。人々はだんだん神のみことばから離れ、自分自身が考え出した説を重んじていた。彼らは何の効力もない伝統的な儀式を守っていた。彼らの奉仕は儀式のくりかえしにすぎなかった。その奉仕を通して教えられるはずの聖なる真理は礼拝者たちにかくされていた。イエスは、彼らが、信仰を伴わない奉仕に平安を見出していないのをごらんになった。彼らは、まことをもって神に仕える時に与えられる精神の自由を知らなかった。

イエスは神の礼拝についてその意味を教えるためにおいでになっていたので、神の戒めに人間の規則をまぜることを是認なすることができなかった。イエスは学問のある教師たちの教えや行為を攻撃されなかったが、ご自身の簡素な習慣を非難されると、神のみことばを示してご自分の行為の正しいことを証明された。

イエスは、いつもやさしくおとなしい態度で、ご自分の接触される人々を喜ばせようとされた。イエスが非常にやさしく慎み深かったので、律法学者たちや長老たちは、イエスが彼らの教えにたやすく感化されるだろうと思った。彼らは古代のラビから伝えられてきた格言や言い伝えをイエスが受け入れられるようにすすめたが、イエスはそうしたものの権威が聖書にもとづいているかどうかをおたずねになった。

イエスは神のみ口から出ていることばならどんなことでも聞き従われたが、人間が考え出したものに従うことはおできにならなかった。イエスは聖書を初めから終りまで知っておられたようで、その真の意味を彼らにお示しになった。ラビたちは子供から教えられることを恥じた。彼らは、聖書を説明するのは自分たちの役目で、イエスの立場は彼らの解釈を受け入れることにあるのだと主張した。彼らはイエスが自分たちのことばに反対の立場をとられることを怒った。

彼らは、自分たちの言い伝えに聖書上の権威がないことを知っていた。彼らは、イエスが霊的な理解力において、自分たちよりもはるかに進んでおられることをみとめた。だが彼らは、イエスが彼らの命令に従わないので怒った。イエスを説き伏せることができないので、彼らはヨセフとマリヤに会って、イエスの不服従の態度を並べたてた。こうしてイエスは、非難ととがめを受けられた。」

1 希望 379 「弟子たちは、イエスがイスラエルの指導者たちの協力を求めようとされないので、非常に失望していた。こうした有力な人たちの支持を得て、キリストの働きを強化しようとしないうちはまちがっていると、彼らは思った。」

大争闘下 361 「サタンはいつも、神の代わりに人間に注意を向けさせようと努力している。彼は、人々が自分で聖書を探って自分の義務を学ばないで、監督や牧師や神学者を案内者とするように導く。そうする時に、サタンはこれらの指導者たちの心を支配することによって、大衆を意のままに感化することができるのである。

④ 精神の自由

マルコ 9:38 「ヨハネがイエスに言った、「先生、わたしたちについてこない者が、あなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちについてこなかったので、やめさせました」。イエスは言われた、「やめさせないがよい。だれでもわたしの名で力あるわざを行いながら、すぐそのあ

とで、わたしをそしることはできない。わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方である。」

2 希望 216「何かの方法でキリストに親しい態度を示す者はだれもこぼんではならなかった。キリストの品性と働きに深く心を動かされ、信仰のうちにキリストに向かって心を開こうとしている人たちが多くいた。そこで弟子たちは、動機を読みとることができないのだから、こうした魂を落胆させないように注意しなければならなかった。イエスが自ら彼らの中におられなくなって、働きが彼らの手にまかされた時、彼らは、狭い、排他的な精神をほしいままにしないで、彼らが主のうちに見たのと同じ広範囲の同情をあらわさねばならない。

人がわれわれ自身の理想や意見に全面的に一致しないからといって、その人が神のために働くことを禁じることは正当ではない。キリストは偉大な教師であられる。われわれはさばいたり、命令したりしないで、おのおのけんそんにイエスの足下にすわり、彼について学ばねばならない。神が心を開かれた魂はみな、キリストがご自分のゆるしの愛をあらわされるチャンネルである。神の光をかかげている人たちの1人を落胆させ、そのことによって神が世に輝かそうと望んでおられる光をさえぎるようなことがないように、われわれはどんなにか気をつけねばならないことだろう。」

使徒 5:30-42「ところが、国民全体に尊敬されていた律法学者ガマリエルというパリサイ人が、議会で立って、使徒たちをしばらくのあいだ外に出すように要求してから、一同にむかって言った、「……この際、諸君に申し上げる。あの人たちから手を引いて、そのなすままにしておきなさい。その企てや、しわざが、人間から出たものなら、自滅するだろう。しかし、もし神から出たものなら、あの人たちを滅ぼすことはできまい。まかり違えば、諸君は神を敵にまわすことになるかも知れない」。そこで彼らはその勧告にしたがい、使徒たちを呼び入れて、むち打ったのち、今後イエスの名によって語ることは相成らぬと言いつたして、ゆるしてやった。使徒たちは、御名のために恥を加えられるに足る者とされたことを喜びながら、議会から出てきた。そして、毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした。」

8 T 232「わたしは、長年の間危険が、絶えざる危険があることを示された。すなわち、わが兄弟がたは、これをする、あれをすることに関して神を仰ぐ代わりに仲間の人間を仰ぐようになる。このようにして彼らは、弱くなり、神に認められない人間がつくった拘束に自らをゆだねる。」

TM 480-481「わたしは、牧師たちと民は、ますます有限な人間の腕を頼みとするように誘惑されることを示された。カンファランスの総理、責任ある地位にある人々に対するメッセージはこれである：神の民におかれていた拘束や足かせを壊しなさい。あなたがに語られている、「すべてのくびきを打ち砕け」と。」

2 希望 183「教会は、キリストをかしらとして、キリストに従うのである。教会は、人にたよったり、人に支配されたりしない。教会の中の信任の地位を占めることによって、その人は他の人たちに何を信じさせ、何をさせるかを命令する権威が与えられると主張する人が多い。神はこの主張を是認されない。」

1 希望 159-161「もしナタナエルがラビの指導を信頼していたら、彼は決してイエスをみいださなかったであろう。彼は自分で見、自分で判断して、弟子となった。今日偏見にとらわれて恵みから遠ざかっている多くの人々の場合も同じである。もし彼らがきて見さえしたら、その結果はどんなに異なったものになるだろう。人間の権威による指導にたよっているかぎり、だれも救いの知識である真理に到達することができない。」

黙示録 14:7「大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。

黙示録 22 : 9「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい」。